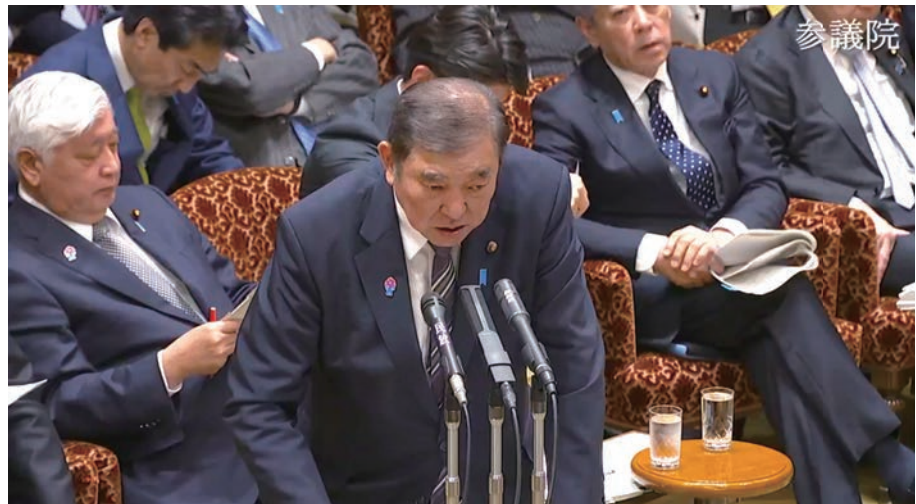




※当センターは、フィリピン残留日本人の身元捜し、国籍確認、在日日系人支援等を目的として、2003年11月、弁護士、市民、企業によって設立されました。

## 戦後80年の節目、一時帰国支援と面会に総理「意欲」示す ——一時帰国支援「十分理由ある」と、塩村あやか参議院議員の質問に答弁

2025年3月5日、参議院予算委員会で、石破茂首相が答弁に立ち、「戦後80年の区切り、(フィリピンに残留している無国籍の2世たちの)一時帰国などの費用を、国家として納税者に負担をお願いするのは意味のあること」と話しました。立憲民主党の塩村あやか参議院議員の質問に対し回答しました。



昨年12月19日には、同じく塩村議員が外交防衛委員会で岩屋毅外務大臣から「高齢化する中、希望者の一日も早い国籍回復や一時帰国に向けた支援を進める必要がある」との答弁を得ていましたが、今回の首相答弁は、さらに一歩踏み込んだものとなりました。

### ■一時帰国時の面会にも前向き

首相答弁に先立ち、塩村議員は「無国籍は人道上大きな問題」との認識を示し、2023年末にクラウドファンディングで来日を果たした2名のうち、一人が親族と思われる人たちと再会を果たしたこと、もう一名も、戦中に消息不明となっていた父がフィリピンで戦死していたことがわかり「自分たちは父親に棄てられたのではなかった」と涙していたことを紹介し、今からでも調査する意義は大きい、わかることは少なくない、として「解決に向けた総理の意気込みを伺いたい」と問いかけました。

首相は冒頭の答弁に加え、一時帰国が実現した際には、残留者たちとの面会も「ぜひ実現したい、外務省に確認



したうえでいい返事をさせていただく」と応じ、一時帰国および首相面会の実現に期待が高まっています。

### ■ダバオ総領事による面接が続く

日本側でこうした動きが加速する一方で、フィリピンでは肅々と在ダバオ総領事館の石川義久総領事による残留者への面接が続いていました。2月28日、石川総領事は、猪俣代表理事とともにダバオデルスル州パダダ在任のイデモト ナツエフリタさんを訪問しました。ナツエさんの父・井手本二郎さんは広島出身で、フィリピン



ン人女性と結婚し、9人の子どもをもうけました。フリタさんにはナツエという日本名があり、きょうだいたちは日本語を話せましたが、敗戦後は身



イデモトさんを挟んで左が石川総領事、右が猪俣代表理事

を守るために日本語を話すのをやめたといいます。戦後、父は日本へ強制送還されましたが、1973年に妻子を捜しにダバオを訪れて再会を果たします。その後、父親は日本に帰ると妻子と再び会うことなく死去しました。

フリタさんは日本人の子どもであると自覚しつつも、国籍回復する手立てを知らずに過ごしていましたが、今ようやく就籍を希望しています。

### ■日本旅券を取得するために一日も早い就籍を

ユリコという日本名を持つサルバシオン ナカガワさんは1944年10月にダバオ市で生まれました。父親である広島出身の中川哉武さんは戦前にフィリピンに来て地元の女性と結婚しました。サルバシオンさんは末っ子で、戦中に父親と生き別れた時は、まだ母親のお腹の中にいました。父のヨシタケさんは戦時下に亡くなったた

め、きょうだい7人の中で末のサルバシオンさんだけが父親の戸籍謄本に記載されずじまいでした。

サルバシオンさんは今、ダバオ市トリルで一人で暮らしています。健康状態は思わしくなく、とくにアルツハイ

マー病が悪化していることから、子どもたちは一刻も早くお母さんを日本に連れて行ってあげたいと願っていますが、現状ではフィリピン旅券も日本旅券も発給されません。子どもたちは就籍申立てが許可されて、母が日本旅券で来日する日を心待ちにしているそうです。



お皿の前に座る女性がサルバシオンさん。PNJK(ダバオの日系人会)スタッフのヘレンさんらとともに。

## 外務省 18 次調査が無事に終了しました

# 父母婚姻の立証が難しい33人の救済を追求

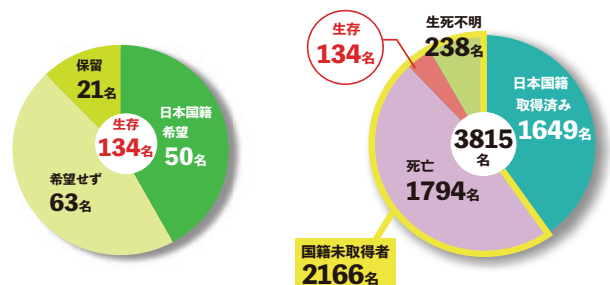
外務省がPNLSCに委託して実施したフィリピン残留日本人第18次調査(2024年5月1日～2025年3月15日)が無事終了しました。

1年前の2024年3月末時点で日本国籍回復を希望していた58人のうち、16人が家庭裁判所へ就籍許可を申立て、そのうち10名が就籍許可審判を得ることができました。残念なことに2件が却下となりましたが、そのうち1件はすでに家庭裁判所へ再申立て済みです。

残り41人のうち、4人が国籍未回復のまま亡くなりました。長い間お待たせしたにも関わらず力及ばなかったことを、大変申し訳なく思います。この他、日本国籍取得の意思を取り消した人が数名ありました。また、新たに日本国籍取得を希望した人、日系人として名乗り出た人もあり、本調査終了時点で日本国籍回復を希望する人は50名でした。この50人のうち6割を超える33人は、父母の婚姻を立証するのが難しいため今まで就籍

許可申立ができていないケースです。今年はこのようなケースも、「生物学上の父」が日本人である場合、子どもは日本国籍を取得できるはず、と主張し、家庭裁判所へ就籍許可を申し立てて行く予定です。

フィリピンに残留した2世の総数3815人のうち、日本国籍を取得しているのは約43%にあたる1649人、未取得のまま亡くなった人は約47%にあたる1794人です。生存を確認した人が134人、他方残りの238人は生死不明者で、引き続き消息調査を続けます。



## 就籍許可に喜びの声、そして亡くなった2世の戸籍登載も

# いよいよ残り時間が少ない中、希望をつなぐ

戦後80年の今年も、着々と就籍許可申立を続けています。証拠が乏しいなどの難しいケースが残されていますが、最後の一人まで救済できるよう、政治的解決を求めるとともに地道な作業も続けています。



### ●上原マリア(84歳)・パムフィラ(87歳)(パラワン州 リナパカン町)

就籍許可の知らせを受け取り、大変うれしく思っています。国籍回復を実現させてくださり感謝しています。手続きを助けてくださったすべての方々、特に東京とマニラのPNLSCと猪俣さんに感謝しています。子どもや孫たちが日本で暮らす道を切り拓いていくことでしょ。皆様に皆さまのご加護がありますように。



### ●小平アリシア(83歳)・ダバオデルノルテ州パナボ市

私の日本人としての国籍回復のために貴団体が費やしてくださった時間、努力そして献身に心から感謝を申し上げます。手続きを進める上で、揺るぎのないみなさまの支援と関わりは、本当に価値のあるものでした。

私は本当に幸せです。国籍回復は、私に日本人としてのアイデンティティを正しく認識させてくれただけでなく、大いなる心の平穏と帰属意識の再構築をもたらしてくれました。私の子どもたち、ジョニー、マリリン、マリベル、ジョエルたちに代わって、



PNLSCとPNJKの献身と懸命な働きに心からの感謝を申し上げます。みなさまの努力がもたらすインパクトは今後も長く続くでしょう。大変に意義のある取り組みに対し改めて感謝いたします。

### ●大城アンヘリタ(86歳)・ダバオ市

この嬉しさをどのように言葉にしたらよいのかわかりません。わたしは自分が日本人だと信じていましたが、長い年月がかかりました。残された時間はわずかですが、日本人であると子や孫に伝えられることに感謝しています。大城家の一員であると日本の親族に認めてもらえますように。



### <戸籍登載による国籍回復>

### ●白石フェリサ(2世)・故人

なんとという素晴らしい日でしょう！ 私たちはこの素晴らしい機会をつかみ取ることができました。あなたたちのチームが私たちを見出してくれて、そして日出ずる国で汗を流してくださったその努力に感謝します。何もものにも代えがたい経験となるでしょう。私たちの祖先が生まれ育った場所を見ることができるのは、なんとという大きな喜びでしょう。私たちのあらゆる夢をかなえてくださってありがとうございました。(3世 フロレンティナ シライシバドゥアレイエス)



## 父亡きあと、友人の力を借りて親族対面を実現させた3世が事務所を訪問してくれました

3月26日、米国アリゾナ州で牧師をしている日系3世ジョエル・パディリアさんが、妻と息子夫婦、フィリピンの姉と兄、知人の日本人牧師夫妻の8人と来所、沖縄で親族とようやく対面を果たせたと、その喜びを報告してくれました。亡き父(残留2世)の悲願だった身元捜しをジョエルさんらが引継ぎ、調査で沖縄出身の父(後濱門亀江)の身元は判明しましたが、2世は全員亡くなり就籍許可申立ては叶いませんでした。祖父のルーツをたどりたい、親族に会いたいというジョエルさんの希望を辛抱強く後押しし、成功に導いたのは牧師仲間のS夫妻。

沖縄の牧師に協力を仰ぎ、親族と思われる方とSNSでコンタクト、信頼関係を築き、ついに「またいここ」同士の対面までこぎつけたのです！ 戦争で引き裂かれた日比の家族をつなぐ親族対面は、必ずしもうまくいくケースばかりではありませんが、あきらめずに思いを伝え続けることで理解が得られ、道が開けることがあると、改めて教えられた嬉しい報告でした。



## 日本人アーティスト×マニラ日比×サントトマス大学 ブラシアートで日比の相互理解を促進

3月5日、首都圏マニラ市のサントトマス大学にて、エアブラシアーティストの岩崎雅一さんによる個展・ワークショップイベントがスタートしました（個展は同月12日まで）。日本エアブラシ協会理事も務めておられる岩崎さんは30年以上活動を続けているエアブラシアートの第一人者。戦後80周年の今年、「戦争を二度と繰り返してはならない」という思いを込めて、旧日本軍が「敵国民」を收容するために利用していた同大学のキャンパス内でのイベント開催を決断しました。

岩崎さんは、自身の経験を惜しみなく語り、彼の芸術に対する情熱や、アーティストとしてのたゆまぬ努力の話は学生たちを大いに勇気づけました。

また、共催であるPNLSCの代表理事・猪俣典弘氏は、オープニングセレモニーの挨拶として「フィリピンにとっての暗黒の時代の記憶は永遠に残ると思いますが、一方で、戦後に両国がどのように癒やしと和解に取り組んできたかということを記憶にとどめることも非常に重要です」と語りました。その上で「私たちの前にある作品は、その技術のすばらしさや芸術としての美しさだけでなく、国境を越えた理解を促し得る美術の力を証明してくれています」と語り、芸術分野での交流をPNLSCが後押しする意義を強調しました。



繊細かつ力強さに溢れた岩崎さんの作品たち



会期中、繊細な筆遣いや独特の色彩が美しい数々の作品が展示された会場に、多くの学生や関係者が集まりました。また、6日に開催されたワークショップに参加した芸術デザイン専攻の学生や教員たちは、岩崎さんからエアブラシによる表現技法を学び、表現への意欲を掻き立てられていました。

会場で展示されていた作品はいずれも素晴らしく、数点が売れました。これらの収益の一部は、PNLSCの活動のためにと、ご寄付いただいています。

今回のイベント開催にあたり、必要な機材などを提供くださったアネスト岩田株式会社様、そして、実施のために尽力してくださった同大学の関係各位に心からの感謝を伝えたいと思います。

（中部ルソンマニラ日比協会 会長・ステファン ブニ）



ワークショップに参加した学生たちと（岩崎さんは後列中央）



## セブ・ネグロス・バギオの各日系人会からの報告

# 総領事主催の祝賀会に参加、会長世代交代も

### ●セブ日系人会

2025年2月21日、日本の建国記念日と天皇誕生日を兼ねた祝賀レセプションが、松尾総領事ご夫妻の主催によりセブ市内のホテルで開催されました。地元の要人から海外の著名な人々まで大勢が集い、おめでたい日を祝いました。私たちセブ日系人會もこの特別な会に招待されたことを誇りに思います。日比両国、そして日系



人のつながりがさらに強化された喜ばしい日でした。

(ジュン タカミヤ カバリエロ・セブ日系人會理事)

### ●ネグロス日系人会

2024年末のクリスマスパーティ開催とともに理事会選挙を行いました。新たな会長と理事会のメンバーが決まり、会長には3世のルディ・トレドが選出されました。(マーク・アンソニー・リヴェラ・ネグロス日系人會事務局)

### ●北部ルソン比日基金 (バギオ)

2024年12月23日に、在フィリピン日本大使館の遠藤和也大使をお迎えするという光栄に恵まれました。2世から5世までが日系人會に集まり、大使との対面が叶い、写真撮影を行いました。

## 第21回通常総会を開催しました

# 残された時間の少なさと財政の危機を共有

2025年3月27日、さくら共同ビル地下の会議室で第21回通常総会を開催、50名の正会員の過半数の参加により有効に成立しました(会場参加7、オンライン参加4、書面表決17、表決委任8)。2024年度事業報告、決算報告、2025年度活動計画、活動予算がいずれも承認され、また9名の役員(理事8、監事1)が全員再任されました。

冒頭、猪俣代表理事が、3月5日の参議院予算委員会の場で、残留者の一時帰国支援と面会に対し前向きに回答した石破首相の様子をニュース映像とともに紹介、政治解決への流れを作っていくべき正念場の年になると強い決意を述べました。活動報告ではホセアバドサントスでのリッターオブライイトワークショップの様子を映像で紹介しました。決算報告で1,600万円の赤字である



ことが報告されると、参加者からは、あと1、2年で活動資金が枯渇しかねない状況への危機感、外務省委託

調査費の人件費が少なすぎるなどの指摘が相次ぎ、今夏に予定している一時帰国の際の世論形成とクラウドファンディングなどの重要性が共有されました。

2025年度活動計画では、①国費による一時帰国と無国籍2世の一括救済 ②両親の婚姻の立証の難しいケースの一斉就籍許可申立 ③一斉申立のためのクラウドファンディングの3点を重点方針として確認しました。総会後の理事会で河合弘之、猪俣典弘が代表理事に選任されました。

時間との闘いの中、残る50人全員の日本国籍回復を勝ち取るべく、事務局一同全力を尽くしてまいります。引き続きのご支援、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします



## 日系人メッセージ：クリスティ シライシ アクエさん（3世）

# 亡くなった母を思いながら日本で暮らす日々

**私**の名前はクリスティ・シライシ・アクエ、55歳です。私はここ日本で働く日系人です。私の母は日本人の子どもで、名前は白石ベニタ、母の父親は白石<sup>しょうぞう</sup>昇三という名前の日本人です。

私は日本で働き始めて15年になります。2010年11月に初めて来日した際は、兄弟は誰も同行せず、私は一人きりでした。当時は、日本語も理解できなかったため少し怖かったです。私は「日本で2年間だけ働いて、その後はフィリピンに戻ろう」と自分に言い聞かせていました。しかし2年経ち、考えは変わりました。日本で働くいここに会えたことで寂しさはなくなりました。「休暇の間はフィリピンに帰り、また日本に戻って仕事を続けよう」と思うようになりました。そして14年が経ち、今も日本で仕事を続けています。

私は広島県のパン工場働いています。私は安全で清潔な日本が大好きです。生活費が高いのが残念なところですが。

**私**の祖父・昇三は、戦前に日本・広島からフィリピンのパンガシナン州へ渡り、大工として働いていたそうです。私が8歳の頃に、母は祖父が日本人だと私たちに話してくれました。母は私に、祖父がとても親しみやすい性格で沢山の友人がいたこと、祖父の日本人の友人らがよく家に来ていたことなどを話してくれました。

また母は、母たち兄弟がまだ幼かった頃、祖父が母たちを日本へ連れていこうとしていたけれど、祖母が日本へ行くこと拒んだと言っていました。そして残念なことに、祖父は戦争中にゲリラに殺されてしまいました。そ

のため、母ら家族は戦後フィリピンに残されたそうです。

母は生前ドレスメーカー、裁縫師をしていました。母は、家に自分のミシンを持っており、顧客のドレスの裁縫を1987年に亡くなるまで請



筆者(左)と日本に来たきょうだいたち  
け負っていました。母を失うことは、私たちにとって最もつらい出来事でした。

2023年に母の出生と死亡を福山市役所に届け出たのですが不受理とされました。翌年に大岩弁護士が家庭裁判所に不服申し立てをしてくださり、届出受理を命じる審判が下りました。これにより、ようやく母ベニタの名前が祖父の戸籍に記載されました。母も天国で喜んでいることでしょう。おかげで私の娘も、もうすぐ私の兄弟たちと一緒に日本へ来ることになっています。



4世たちの集合写真

## ●●●● 学生スタッフが卒業され、社会に羽ばたきます！おめでとう&ありがとう！ ●●●●

長い間お世話になりました。アルバイトを通して、フィリピン日系人の方々の状況や想いに触れ、PNLSCの取り組みの重要性を知りました。微力ですが、これからも応援しています！今までありがとうございました！

(中野渡 瑞葵さん)



この3月でPNLSCでの活動は終わってしまいましたが、大学生活でフィリピン残留日本人の無国籍問題や支援しているPNLSCを知り、携わることができて良かったです。これからも関わり続けたいと思います！（ヴィリヤリエールキムアイコさん）



# 心温かなフィリピンの同胞たちこそ日本の希望

## フィリピンの悲惨な戦争の歴史に愕然

私のフィリピン訪問は、30回を超えます。スキューバダイビングのメッカ、フィリピン。ダイバーは、最低でも1回はフィリピンで潜っています。

1億1千万人の人口、平均年齢24.1歳。街を歩くと若者だらけ。明るく、親切で、特に年寄りに優しい事には感心させられます。親孝行という言葉がまだ残っています。空港のイミグレーションにシニア専用のレーンがあります。マーケットにもシニア専用レジがあります(全てではありませんが)。世界200カ国以上の国でイミグレーションにシニア専用レーンがあるのはフィリピンだけではないかと思えます。

東京から5時間のフライト。こんな近くて素晴らしい国フィリピンの事をほとんどの日本人はよく知りません。私もダイビングポイントの沢山ある国、程度の理解しかしていませんでした。

2年前、顧問先の社長に誘われて、ミンダナオ島のダバオ訪問がきっかけで、フィリピンに対する見方が変わりました。日系人の就労支援をしているフィリピン日系人リーガルサポートセンターの皆様にお会いする機会を得ました。戦後日本の歴史教育では、明治維新後、特に第二次世界大戦及び大戦後の歴史を教えていません。特にアジア諸国との歴史教育は皆無です。フィリピンの日系人の戦後の悲惨な状況を聞き、愕然としました。

100年以上前、貧しかった日本からフィリピンに渡った日本人。フィリピンのジャングルを開墾し、農園を作り、現地の女性と結婚し、幸せな家庭を作っていたと聞きます。その幸せな家庭をぶち壊したのが、日本軍のフィリピン占領でした。日本軍特有の兵站戦略は全て現地調達。フィリピンでは兵隊までも現地調達でした。

満州国の残留孤児の問題が一時期、毎日マスコミに載りました。この時、政府は孤児の親戚探しの費用をすべて負担しました。残留孤児は、ある意味、敗戦による逃亡の混乱期に起きた悲劇です。

フィリピンの日系人の悲劇は、日本人父の日本軍への徴兵、そして戦死。敗戦後、生き残った日本兵らの強制送還。そして日本とフィリピンの国交回復迄に時間がかり過ぎたことではないでしょうか。戦後、フィリピンの日系人は自分の身分を隠して生きて来たそうです。

## 沈みゆく日本における希望になると確信

先日、2度パラワンを訪問し、日系人とお会いしました。皆さん、フレンドリーに明るく接してくれて、かえって申し訳なさを感じました。彼等と私には同じ日本人の血が流れています。何一つ不満も言わずに、日本から来た友人として私たちを歓迎してくれました。

パラワンの日系人は、ほんの一握りを除き、決して富裕とはいえません。日系3、4世の人は口々に爺さんの故郷、日本に行きたいし、できたら住んで働きたいと言います。これまでは誰かが出稼ぎに来て、お金をフィリピンの家族に仕送りしていました。これからは、家族全員で日本に定住して働き、子ども達は日本の学校に行き、日本人の同胞として生活すべきではないでしょうか。

人口減少に無策な日本。日の沈み行く日本。若く、働く意欲満々のフィリピンの日系人。上手くマッチングすれば、日本を救うきっかけになると確信しています。

先週の日曜日、高校一年生の孫が友達3人を自宅に連れて来ました。その内の1人は、フィリピンの日系人でした。日本に定住し、生活し、子どもが日本の学校に行けることが当たり前になる日が来る事を、行政当局に望んで止みません。



(写真上)パラワン・ブルックスポイント在住の岩尾ファミリーを訪問  
(下)パラワンの美しいビーチで(筆者はいずれも前列右から2人目)



PNLSC 活動報告 (2025.01.01-2025.04.03)

<b>01/06</b> 仕事始め	<b>02/03</b> 事務所訪問(石井)	<b>03/21</b> 赤岸ファミリー3世4世来所
<b>01/13</b> 事務所引っ越し	<b>02/07</b> 来所: NHK 桑原義人さん	<b>03/25</b> 放送博物館訪問(NHK 酒井さん、田近)
<b>01/14</b> 外務省南東アジア二課訪問(猪俣、石井)	<b>02/13</b> 外務省南東アジア第二課訪問(猪俣、梅村みずほ参議院議員訪問(猪俣、石井)、来所: プラチナ・ギルドの会 廣瀬豊邦さん、鈴木信男さん)	<b>03/26</b> 後濱ファミリー8名来所
<b>01/15</b> 猪俣、フィリピン出張(〜30日)	<b>02/14</b> 猪俣、沖縄出張(〜15日)	<b>03/27</b> PNLSC通常総会、懇親会
<b>01/15</b> ニュースレター発送準備(ボランティア3名参加)	<b>02/18</b> 事務局会議	<b>03/28</b> テレビ朝日 浦本勲さん、松本健吾さん、那須雅人さん
<b>01/16</b> ニュースレター発送(ボランティア4名参加)	<b>02/23</b> 会計監査	<b>03/31</b> 外務省南東アジア二課訪問(猪俣、石井)
<b>01/21</b> 来所: NHK 酒井有華子さん、丸岡樹奈さん	<b>02/25</b> 猪俣、フィリピン出張(〜3/8)	<b>04/02</b> 来所: 毎日新聞 加藤昌平さん
<b>01/28</b> 英利アルフィア衆議院議員事	<b>03/12</b> PNLSC理事会	<b>04/03</b> 来所: NHK 桑原さん、酒井さん、丸岡さん
	<b>03/15</b> 外務省第18次調査終了	

書き損じハガキのご寄付を  
お待ちしております!

ご支援に感謝いたします (敬称略・順不同・2025.01.03-2025.04.07)

- 《新入会》  
**団体賛助会員:** 沖縄県ダバオ会  
**個人正会員:** 兼田はる子  
**個人賛助会員:** 渡辺順昭、金城正枝、岩佐敬子  
**日系人会員:** ゴメスルス、パディリアジョエル  
 《会員更新》  
**団体正会員:** 清水木材(株)、(株) 浦濱恭、(株) オカダ商事、まるほ食品(株)、(株) 共栄会保険代行、(株) エヌチキン、(株) トライアンプ、(株) マルツチ、(株) グロップ  
**個人正会員:** 谷内田育子、関口恭史、久保ノ谷司光、奥田幸子、大高純子、北野貴晶、北林光治、池山和徳、小池満也、井上康三郎、竹中収、保津豊彦、高橋毅、永野一郎、本田孝明、田邊正裕、小島求己、滝健、野村雅代、松崎富弘、関野章、宮澤吉彦、小林晶子、外園善一、遠藤賢司、木場紗綾、望月賢司、大野俊、青木秀茂、飯島真里子、河合弘之、本田佳江  
**個人賛助会員:** 宮城清宏、大島昌二、竹嶋克之、笠井庄治、高良栄吉、田所智子、川瀬真人、久保田直子、山本光代、馬場成之、大友麻子、比屋根勉  
**日系人会員:** ホシコアントニノポト、エステバンレネボーイ、アグイオピセンタバギオ、入江ヘンリーラモス、サカイマリアメリッサ、神崎ジョセフ、アルペスラルニムマル、オルベスオリバムマル、マキリンラファエル、マツモトアルフレッド、タグチメラ、エサキベルニー、スホトラモンアントニオJr、ナパロ、金城レプリコロバートフランス  
**寄付:** ばかぼん、中村勇、岩崎雅一、ホシコアントニノポト、佐藤和樹、(株) 浦濱恭、石井綱枝、エステバンレネボーイ、高橋毅、田所智子、川瀬真人、岩佐敬子、志田多果夫、松崎富弘、マキリンラファエル、(株) マルツチ、吉永直登、馬場成之、タグチメラ、鳥居弘昌、島田ビトウィン、細野和子、奥田幸子、飯島真里子、ニシグチマサヨ、永田ミユキ、星長吉、田村隆幸、北野貴晶、伊藤英男、本田佳江、奥田よし子、望月賢司、猪俣典弘、石井恭子、匿名

※認定 NPO への合計 3,000 円以上の寄付、個人・団体賛助会員、学生、日系人会員の会費は寄付控除、法人税優遇の対象となります。(但し、正会員会費と各種入会金は控除の対象外)

※領収書(寄付金受領証明書)について、今後は1月〜12月にご入金いただいた領収書をまとめて翌年1月にお送りすることとさせていただきます。すぐに領収書をご入用の方は恐れ入りますが事務局までお知らせください。

事務局だより

戦後 80年の正念場、首相の答弁もあり、一時帰国による肉親捜しと世論への働きかけに力を尽くします。会員更新くださったみなさま、ありがとうございました。発送作業だけでなくウェブ対応などボランティア登録して下さる方も徐々に増えています。興味のある方はぜひご連絡ください。先日、テレビ朝日「テレメンタリープラス」をご覧くださった方から「もう二度と戦争によりどこにも属せない人が生まれませんよう、豪徳寺の「まねきねこ」のお守りをお送りします」とのお手紙とともに可愛らしい招き猫が届きました。胸が温くなりました。



マニラ事務所便り

第二次世界大戦終結 80周年にあたり、残りの2世の人たちの、認められることへの祈りと願いがすぐになかえられることを願っています。願わくば、彼らが長い間闘ってきたアイデンティティを今年中に手に入れられることを。そうすれば、彼らはまだそれを祝い、誇りを感じることが出来ます。(ジェン)

ご入会・ご寄付のお願い

■正会員

(団体) 入会金	30,000円
年会費	24,000円
(個人) 入会金	10,000円
年会費	12,000円

■賛助会員

(団体) 入会金	10,000円
年会費	12,000円
(個人) 入会金	1,000円
年会費	6,000円

■学生会員

入会金	なし
年会費	3,000円

■日系人会員

入会金	なし
年会費	3,000円

■銀行口座

みずほ銀行 四谷支店  
 普通 1985293  
 ゆうちょ銀行 〇一九支店  
 当座 00130-6-333599  
 ※名義はいずれも「フィリピンニッケイジンリーガルサポートセンター」

発行

認定 NPO 法人  
**フィリピン日系人リーガルサポートセンター**  
 (Philippines Nikkei-jin Legal Support Center)

代表理事: 河合弘之 Hiroyuki KAWAI  
 猪俣典弘 Norihiro INOMATA  
 事務局長: 石井恭子 Kyoko ISHII

〒160-0003  
 東京都新宿区四谷本塩町4番15号 さくら共同ビル B1  
 TEL:03-6709-8151 FAX:03-6709-8152  
 E-mail:info@pnlsc.com URL:http://www.pnlsc.com

